平成３０年度　大阪府立むらの高等支援学校　第二回　学校運営協議会記録

日　時：平成３０年１０月３０日（火）１５：００～１７：００
司　会：教頭
出席者：学校運営協議会委員（６名）
大阪国際大学（教授）
㈱モンアタッシェ（代表取締役）
大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合（事務局次長）
北河内西障害者就業・生活支援センター（センター長）
枚方市村野区（区長代理）
本校ＰＴＡ（会長）
校長　事務局（９名）

１　資料の確認および次第説明（教頭）

２　校長挨拶
本校の取り組み状況の報告や取り組みについての概要説明。あわせてご意見・ご提言の本日の協議へのお願い。

３　報告
①「平成３０年度学校教育自己診断の概要と診断票」について（首席）
「学校教育自己診断の実施について」と「学校教育自己診断票　質問項目」の変更点を含めて、趣旨と概要、実施方法について説明した。また実施後に集計・分析し、年度末に「実況調査」で結果を公表する。
②「むらの高等支援学校オープンスクールの取り組み」について（首席）
７月26日（AM）、27日（AM）、28日（AM･PM）に実施したオープンスクールについて、その概要と目的を説明し、実施内容と実際の様子について報告した。
③「学校経営計画の進捗状況」について（校長）
第一回学校運営協議会でいただいた意見を基に学校経営を進めている。
めざす学校像を確認し、今年度の重点内容を中心に、中期的な目標に基づいた具体的な取組計画と内容の進捗状況について説明した。

４　協議
Ａ委員：今年度の学校教育自己診断票は内容が精選された印象を受けた。委員の方で気がついた点があれば？
Ｆ委員：クラブ活動の参加状況についての質問項目が削除されたのは何故か？体力つくりの面からもクラブ活動（体育系）は大切だと思うが？
事務局：体育系、文化系に関わらずクラブによるが週２～３回活動している。
校　長：クラブ活動にほとんどの生徒が入部している状況なので入部していない少数の生徒に配慮した。

Ａ委員：生徒の項目で自分の「個別の教育支援計画・個別の指導計画」の目標を知っているかの質問項目を入れた理由は何か？
事務局：生徒自身に自分の課題、目標を認識し、知ってもらいたい意図で質問項目を設けた。

Ａ委員：学校教育自己診断票の質問項目「学校組織」は管理職の意向を反映したということだが、補足はあるか？
校　長：予算について年度当初に各分掌等から授業や生徒の活動等で必要な物品をあげてもらい、学校として予算計上している。昨年度校長マネジメント経費 120 万円だったが今年度は 100 万円に削減されたが、下期には新たに予算要求した学校に対して予算がつけられる。
「職員朝礼について」「首席の体制について」は新規に追加した。
Ａ委員：生徒と教員の認識の違いが学校教育自己診断票の集計結果から、わかれば良いと思う。

Ａ委員：オープンスクールの取り組みについて。特に実施時期を８月下旬から７月下旬に移動させたことも含めて、参加者（350～400 名）についてわかることがあれば。
事務局：参加者の８０％くらいが中学３年生とその保護者または教員。残りは小学生とその保護者で、この時期から進路先を検討している様子。後は単独の教員と一部企業関係者というような構成。
校　長：先日、寝屋川市支援教育研究会（小中学校教員）が見学に来た際に本校の概要、高等支援学校・共生推進教室について説明を行った。
Ｅ委員：むらの高等支援の地域の認知度を広げていく必要がある。
Ｂ委員：オープンスクールの周知はどのように行っているのか？
事務局：各市町村教育委員会宛に郵便、メールで中学校向けの案内を送っている。
Ｂ委員：小学校の保護者は子どもの将来に対して不安に感じていることが多いので周知の範囲を広げてはどうか？
事務局：小学校への周知方法も検討したい。

Ａ委員：オープンスクールを経て、生徒の成長はあったか？
事務局：１年生は、初めての教科発表からなので、大変だが良い取り組みになっている。前に出てもうまく話せない生徒がいるが課題発見の機会と捉えている。
Ａ委員：参加人数が昨年に比べて減っているのか、実施時期によると考えてよいのか？
事務局：検討は難しいが、夏休みの影響によるものかは不明。
校　長：実施４回（7／26：ＡＭ、27：ＡＭ、28：ＡＭ･ＰＭ）のうち、最終日は台風接近もあり、最後まで実施が危ぶまれた影響も考えられる。
Ｄ委員：台風接近中で、これだけの参加人数は素晴らしい。
Ｃ委員：プレゼンの様子を動画で是非見たかった。

Ｂ委員：平成 30 年度学校経営計画及び学校評価について、外部講師を交えた研修会は継続できているのか？
校　長：予算的なこともあるが、言語聴覚士、臨床心理士の方に生徒に関わった様子を基にしたグループワーク等を行う研修を実施した。また定期的に理学療法士、作業療法士などに来校してもらい連携を取っている。
Ｂ委員：以前、同様の研修を行ったことがあるが、学校内でリーダーに対するコミュニケーション等に関する研修を検討しても良いのでは。

Ｄ委員：昨年度卒業し、就職した方たちの定着率が 100％というのが素晴ら

しい.

Ｃ委員：定着率ということでは、働き続けることは難しい。特に３～5 年くらいが問題で、学校と就業支援センターとの連携が大切。

Ｄ委員：働き続けるには「教師の支え」「声かけ」「気がついてもらえる」などの要素が必要で、学校にはそれがあるが、それがなくなった時にどう対応するのかが問題になる。就業支援センターが支える側になるが、どのように補っていくのかが大事になる。この点を在学中に確認してもらいたい。

Ｆ委員：懇談会で在学中の家族の支えが大事と伝えられた。家庭でできることを保護者自身も学びたい。

Ｂ委員：卒業で失うものもあるが得るものも多い。センターには得るものに喜びを見出せるように導いてほしい。問題がないと登録できないという支援機関があるようだが、在学中に登録しておき、卒業後３年間は連携してもらいたい。また支えを得て少しずつ自立していく方向を模索してもらいたい。

Ｄ委員：何かあった時のために何もない時から連携を作っていく必要がある。むらのは広域校だが学校でそのような仕組みを作ってもらいたい。

Ａ委員：むらのの取り組みは？

事務局：就業支援センターとは３年生の夏休みにそれぞれの管轄で登録を行うようにしており、今の 2 期生 3 年生は全員が登録を済ませている。また現在、就労に向けて実習を行っている生徒もいる。
基本的に就労時には移行支援ケース会議を就労先で、本人、保護者、就労先、就業支援センター同席のもと行っている。

Ａ委員：大阪ガスでの活動はどのように始まったのか？

事務局：プロダクトデザイン科の木工分野での取り組みとして外部で販売活動ができそうなところをインターネットで検索した。条件として金曜日の授業時間中に３年生が活動できるところであったが、６月にあった御堂筋ふれあいバザーでの大阪ガスブースが条件に合致したので、連絡を取り、木工製品の販売を行わせてもらった。

Ａ委員：生徒の活動の場を広げてもらいたい。

事務局：少しずつ広げていく方向で検討している。

教　頭：今回の意見を参考に、今後の活動に活かしていきたい。

５　校長挨拶

６　事務局より

次回、第三回学校運営協議会　1月２９日（火）１５：００～１７：００